

及び各種団体などと連携し、住民主体の健康づくり活動を促進していくことが、市民の健康寿命の延伸に繋がるものと考え

(健康づくり課)

要望 健康長寿日本一を掲げ、市民の共通目標として健康寿命延伸を推進することは、何ら支障はないものと考え。市民運動として推進すべきだ。

◆保健師の地区配置は

問 体系立った健康づくり施策推進に当たっては、保健師の役割は非常に重要である。地域住民との信頼関係を築き、健康管理と合わせ、一人暮らしの高齢者とのコミュニケーションの確保など保健師でなければできない重要な仕事である。各地区に配置しての事業展開を考えるべきではないか。

答 健康づくりに関しては、保健師の役割は大変重要と考えている。現在

は保健福祉センターに保健師等の専門職を集約して配置し、母子健診や相談、特定健診などを実施している。

しかしながら、保健師が積極的に担当地区へ出向き、地域住民との関係を築くことも重要であり、他団体と連携し課題を共有する中で、地区における健康づくり活動を推進していく。

(健康づくり課)

◆平出博物館建設事業費及び財源見込みは

問 第六次総合計画中の大きな建設事業として、老朽化に伴う平出博物館の移転改築事業が予定されている。

総事業費は、約20億円で、財源として国庫補助金、起債、一般財源となっている。しかし、建設物価の高騰や国庫補助金など不確定要素が多い。建設費や財源をどのように見込んでいるか。



移転改築予定の平出博物館

◆新平出博物館の建設費については、現時点では約20億円としており、財源としては国庫補助金4・5億円、起債は13・5億円、残りは一般財源で2億円としている。

しかし、昨今の建設物価、人件費の高騰を踏まえると建設費の上振れは避けられないと認識している。また、財源である国庫補助金は、内示率の低下や対象事業に制限がかかるなどの傾向にあり、当初見込んだ財源は大変厳しいと承知している。

従って、現在他の財源や民間活力による整備手法などを検討している。

(平出博物館)

政進会

質問者

樋口千代子

青柳 充茂・青木 博文
石井 勉・小野 芳幸
百瀬 友彦



持ち時間140分

職員の能力を発揮できる理事者の役割!!!

◆少子化対策及び子育て施策について

問 9月に県内首長アンケートの結果が新聞報道された。市長の回答は「効果を感じている施策は今のところない。」であった。理事者の発言が思わぬところで職員の士気に大きな影響を与える。施策を推進している中で、なぜこのような回答に至ったのか、お聞きしたい。

答 合計特殊出生率が令和4年1・30人と低下傾向であり、加えて、本年12月1日現在で0歳児が393人となり、本市の乳幼児の人口が著しく低下している直近の状況を

重く受け止め、アンケートに回答した。少子高齢化、人口減少時代に突入し、第6次総合計画に掲げる様々な施策について全職員とまちづくりの思いを共有し、英知を結集する中で重層的・戦略的に推し進めていく。

(市長・企画課)

◆医療・介護・健康DX推進に向けて

問 政進会では、伊那市の医療Maasについて中山間地域の訪問診療の状況を視察した。看護師が医療機器などを搭載した医療用車両で患者の自宅近か自宅まで訪問し、遠隔聴診器も搭載し、車両内のテレビ会議システムを通して病院内の医師がオンライン診療を行うものである。人生の最期を自宅で迎えたいと希望する57・9%の方の実現を目指し、地域包括ケア会議の開催予定はどうか。